

2F-8

特16
536

141
202



014506-000-0

特16-536

日本正有記 卷之上

大橋 卓蔵/著

M27

ABB-0884



日本正有記 卷之上

造化及天神七代地神五代之事

神稻日記造傳之事

土草具造傳之事

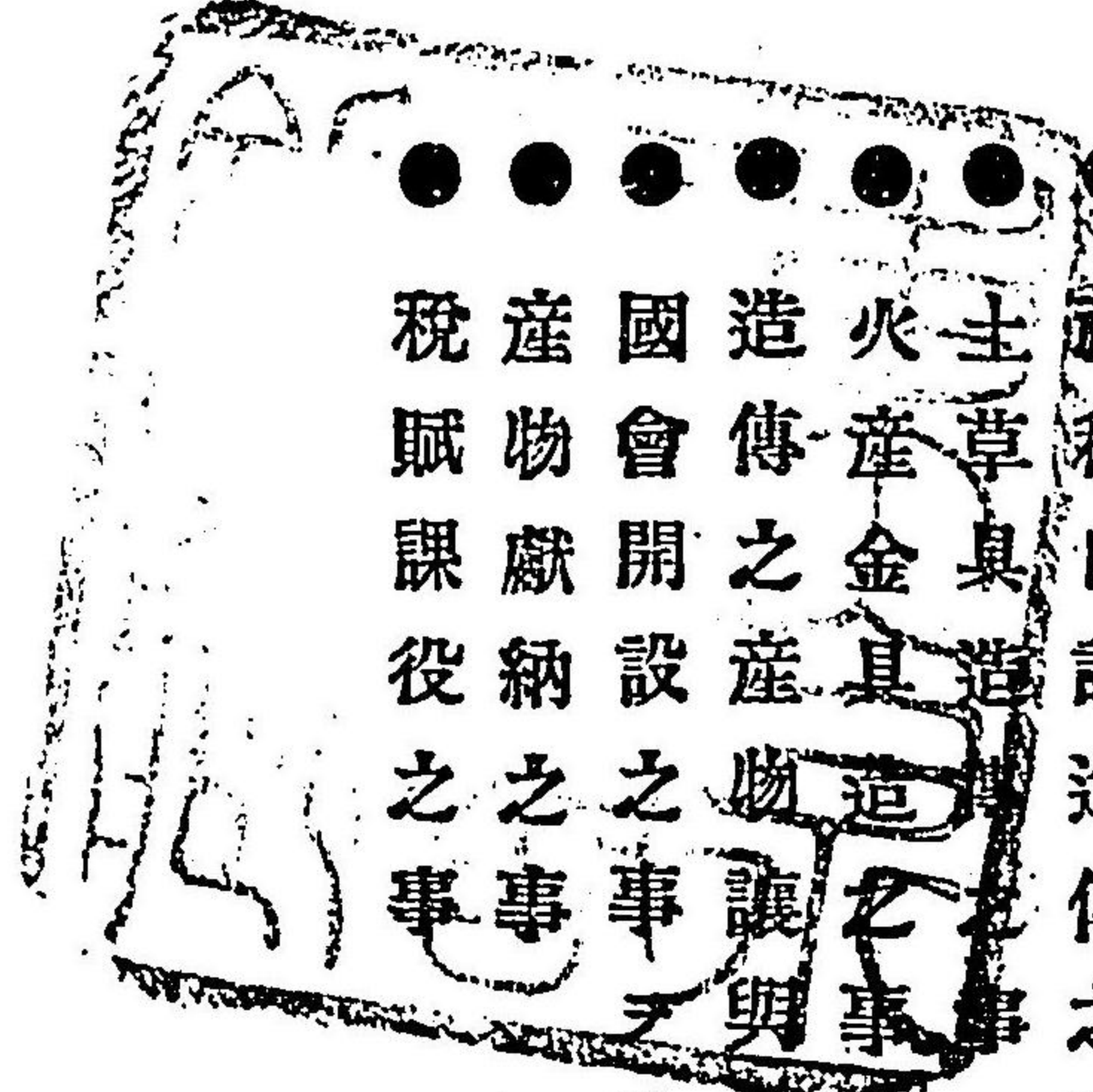
火產金具造傳之事

造傳之產物讓與之事
國會開設之事
神集神議之事

國會開設之事

產物獻納之事

稅賦課役之事



弁護申置

神佛之教又ハ命之御名ガチガイナドハカレコレ申人モ多クアルデ有マシヨウカ卷之下ニノヘマス

日本二十一代集

古今 後撰 拾遺以上三代集 後拾遺 金葉 詞華 千載 新古今 以上八代集稱
新勅撰 續後撰 續古今 續拾遺 新後撰 玉葉 續千載 續後拾遺 風雅集 新
千載 新拾遺 新後拾遺 新續古今 自新勅撰以下十三代集稱

古今和歌集撰者四人

紀友則 紀貫之 凡河内躬恒 壬生忠岑

梨壺五人後撰集之撰者

大中臣能宣 清原元輔 源順 紀時文 坂上望城

右撰者及二十一代集之外ニ撰文左ニ寛忠記ス

造化及天神七代地神五代之事

●抑本朝ノ造化三柱ノ神ハ天之御中主神高皇靈產神神皇產靈神ナリ世界ヲ天之御中主
神ト云火ヲ高皇產靈神ト云水ヲ神皇產靈神ト云フ雲キリ雨ヲ宇麻志葺芽彦舅神ト云
天之底立神ヲ風ノ神ト云火水風雲トモニ生レマシクテ則チツカサトリタモウナリ

今世至リテ人跡ヲ御守リタモウユエニ人ノ目ニ見エテ見エス聞テ聞エス廣大無偏ノ
御神ト申シ奉ルナリ

第一

●天神壹代 國常立尊ニ御使ヒ奉ル命ハ 金山彦命 則此命ハ金ノ産ルノ常ヲ御尊ニ
ツケタモウナリ

第二

●天神貳代 國狹土尊ニ御使ヒ奉ル命ハ 神稻之命 則此命ハ草木魚鳥獸虫ノ養ヒノ
ヲ守リ草木ノ蒔付植付スキノ壹具ヲ御尊ニ奉ルナリ

第三

●天神三代 豐斟淳尊ニ御使ヒ奉ル命ハ 大己貴命 則此命ハ草木土具ノ八財ヲ御尊
ニ奉ルナリ

第四

●天神四代 泥土養尊 沙土養尊ニ御使奉ル命ハ 大山險命 則此命ハ草木魚鳥獸虫
ヲ險物ニスルヲ御尊ニ奉ルナリ

第五

●天神五代 大戸道尊 大苦邊尊ニ御使奉ル命ハ 中筒男之命 則此命ハ杭イカタノ

二具ヲ御尊奉ナリ

四

第六

●天神六代 面足尊 惶根尊ニ御使奉命ハ 少名彥名命 則此命ハ百化ノ魚鳥虫ノ藥ト毒トノ二ツヲ御尊ニ奉ルナリ

第七

●天神七代 伊弉諾尊 伊弉册尊ニ御使奉ル命ハ 木花開耶姬命 則此命ハ男女ノ交合リノ道ニ小兒出産ヲ取洗ウノヲ御尊ニ奉ルナリ
次ニ第 壹 地神云

●地神壹代 彦火火出見尊ニ御使奉ル命ハ 天刺遇突智命 則此命ハタキヒトフキタケトノ二具ヲ御尊ニ奉ルナリ

第貳

●地神貳代 天之忍穗耳尊ニ御使奉ル命ハ 石凝姥命 則此命ハ金具ヲ御尊ニ奉ルナリ

第三

●地神三代 天照皇太神ニ御使奉ル命ハ 保喰命 則此命ハ草ヲ養フノ道用惡水ニ草實ヲタモツヲ奉ルナリ

外ニ

事代主命ハ財物受換スルヲ奉ルナリ
大物主命ハ財物運送スルヲ奉ルナリ
經津主命ハ智惠身体ヲ守リ財物ヲ讓ルヲ奉ルナリ
武甕槌命ハ武勇ヲ守ルヲ并弓矢御尊ニ奉ルナリ

第四

●天神四代 天津彦瓊々杵尊ニ御使奉ル命ハ 猿田彥命 則此命ハ碓キ子ニ馬ヲツカサリノ三ツヲ始ラシ八百萬神ノ議ヲ御尊ニ奉ルナリ

第五

●天神五代 鷲鷲葦葦不合尊ニ御使奉ル命ハ 健甕能命 則此命ハ杭ヲウカヤニテ葺スルヲ御尊奉ナリ地神五代ハ地神壹代ヨリシテ神ノ産タモウニシテ小兒ヨリ生育アリシタモウユエニ神ノ御名ハ地神ト申奉ナリ
則此時御尊ニ使奉ル命ヲチトモニ豊葦原乃水穗乃國ニ八百萬神有之ナリ此八百萬神ヨリ貢ヲ奉ル神ト云是ヨリシテ後世ヲ人皇ト改ムルナリ

第壹

●人皇壹代神倭磐余彥尊 御代ニシテ人皇ト申奉ナリ御尊ニ使奉ル命等モ御人ト申ナ

五

リ貢ヲ納ムルモノチエヒスト申ナリ又人皇十六代應神天皇ノ御代ヨリシテエヒスチ改メテ民トス民ノ始ナリトス

●天神七代 地神五代 ノ尊ノ太神ハ 十二宮不及申皇尊太神ナリ御使奉ル命等モ太神ト申奉ナリ命太神等拾六座ナリ人々日々ニスンカンモ御サツケサウケント申フナシ是則太神ノ廣太ノ御德ナリト云ナリ

●天神七代ノ御尊ハ日月ノ化身ナリ御尊ノ尊トツカヘタマツル命ノ命ト其ノタツトキガカハル則ツカヘタモウ命ハ星ノ化身ナリ是則日月星ノ化身ニシテ 御マシクタモウナリ七代目伊弉諾尊伊弉册尊ノ ミトノマクバイチナシテ彦火火出見尊ヲ御産ミタモウ始ノ尊ハミナ府代御之尊ト申奉ル則伊弉諾尊トモニ前七代日月星ノ化身ナリ其後地神五代ニツカヘタモウ御尊ヲチモ身体ニヤトリテ産レテ育チタモウユエニミナ地神トユエルナリ又人皇ニ至リテハ天皇ニ府タモテ始ハ一之宮二之宮ト申奉ル御事ナリ

神稻日記造傳之事

●國常立尊 日月ノ化身ニシテ此常ノ世介チ御造タモウ此時ニ 金山彦命ハ御尊ニツカヘタモウトキニトコノ金ヲ産レルノトコナ御ミコトニ奉ルニ依テ金山彦命ト申シタマツルナリ又國常立尊ハ草木魚鳥獸虫ノ一ツトシテ不シウユウナク御サツケタ

モウユヘニ天地トナツクルノ始メ地チアユミカタメテ地チサツケ日月センドウシタモウトコチ天トサツケ是則天地ノ始ナリ今世ニ至リテハ三世ト云御尊ノ御メグミハ不少不多三世トハ古ヘニ今世ニ後世ト云此三ツチ御メグミタモウコトノ御德ハ廣太ムヘンナリト云

●國狹樞尊 日月ノ化身ニシテ國土ノ山川野原海ヲ別開シテ國常立尊ノ御サツケアル六種ノ御蒔植ヲ始メタモウナリ依テ草木魚鳥獸虫ヲツタテマヘドモ草木ハマケバマイタルダケノコトナレトモ此時星ノ化身ノ神稻之命ニメイシテ草木ノ蒔付植付ノ始チナシ土ヲウコカスヲ手足ニテウコカスノミ此時ニ神稻之命カ始テスグナルキヲトリテ其木ニテ土ヲウゴカスノ始チナシ此時始テ土トナツクルノ始ナリ其木チスキトナシスキトナツクル始リナリ依テ草木ヲ蒔付植付ノ始メ土ヲウゴカスノ始スキトユウキクノ始メ三道ノ元祖土民ノ始ナリト云今ノ米麥松杉百ケノコトヲツクルノ始ナリ今世ニ至テハ大年太神ナリ古ハ年月ノ定モナク稻草ヲ以テ壹周度トナセリトス人皇拾六代ニイタリテ年神トマツルナリ神代ノムカシハ稻ヲツクルノ始チナシタルユエニ神稻之命ト申ナリ人皇十六代應神天皇十一月茲ニ始テ祭ルナリ神稻之命今世ニ至リテハ農ノ始トユウ稻ヲツクルノ第一ノ道チ御サツケタモウ御コトナリト云

●豐斟淳尊 日月ノ化身ナリ此御尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモウコトチ星ノ化身ノ大

己貴命ニマモラセタモウ大己貴命ハ食チイレルノ財チツクリ始チナシテ草木土具チ造リ第一イトナハ第二ミノカサ第三ツトタハラ第四ヌノフクロ第五ツチ第六カハラク第七ツユキノキノ七財チ御サツケタモウナリ又曰ツユキノキト云ハ木ノ枝ニ草木葉チカケテ其シタハ草木ノ葉チシキテツトタハラヘ食物チ入テタクハヘルナリ此八財チタクハヘルコトヲ奉ルユエニ八チ財神ト申ナリ草木土ノ道具チ始チナシテ御サツケタモウナリ

●泥土養尊沙土養尊 日月ノ化身ナリ此御尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモウコトヲ星ノ化身ノ大山險命マムラセ大山險命ハカハラケニ大海ノ水ヲ入テ陸地ニテ食スルコトヲ始メ木草ノ實根マタハ魚鳥獸虫トイヘトモ水ツケニシ日リソボシニシテ食スルコトヲ始草木實チ水ツケシホツケハ今世ノ酒味嗜タマリ野サイノツケモノナリ魚鳥獸虫モ日リソボシニテタクハヘテ食スルコト御サツケタモウナリ今世ニ至リテハ醸造ノ御神大山險命ト申奉ナリ

●大戸道尊大苦邊命ハ日月ノ化身ニシテ此御尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモウコトヲ星ノ化身ノ中筒男命ニ守セタモウ此時中筒男命ハ木ヲトリテ土地ニアナチホリテ木立テ木ト木トナハニテムスヒ合セテ其ユヘニトマチアミテカケテコレナ杭イヘトシウマチイヘノ始ナリ今世ハイヘノコトヲ戸ト云ナリ又曰木ヲトリテ水ニウカシ草ノツ

ル竹ナハニテカキツケタリシテ海川チ通ルコトヲ始今世ノフチイカダノ始ナリ是則草木具ノ二ツヲ造リ御サツケタモウナリ

●又曰人皇ノ御代ニ天智天皇ノ御歌ニ秋ノ田ノカリホノイチノトマチアラミハカコロテハツユニヌレツト云御歌アリ我コロテハツユニヌレアメニヌレルナリ神代ノ神ノ御丹精ニテアリカタキコトナリト云コトヲ天智天皇太神ニテモシンニハスレズマコトハ廣太ナルコトヲシラセルナリト云御歌ナリ

●面足尊惶根尊ハ日月ノ化身ニシテ先ノ御尊ノ御サツケタモウコトヲ星ノ化身ノ少名彦名命ニ守セタモウ此時少名彦名命ハ虫ノ養育ノ始チ開キ百化虫ノ生育イヌスコトヲナシ又曰虫カ虫ヲ喰ト不食トチヨクコ、ロミテ是ヲ以テ藥ト毒ト二ツチハケテ御サツケタモウナリ又曰山マイトマイトハ人ノ身軀チ養育スルコトヲサツケ又曰虫ヲ喰シテクスリトナルトドクニナルトハケ虫チ虫ニテフセグチサツケ虫チナキトキニハ草木ノ葉實根チ用ルナリ是則今世ノイヤクノ道チ御サツケタモウナリ云

●伊弉諾尊伊弉册尊 日月ノ化身ナリ此尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモウコトヲ星ノ化身ノ木花開耶姬命ニ守セタマウ木花開耶姬命ハ御尊御産タモウ彦火火出見尊チ御ソタマモウユエニ出産チ安クナスチ始夫フウノナカタチ始タモウハ今世ノ夫フウノ世ハノコノ始ナリ世話ノ道ハ木花開耶命ヨリ始メタモウナリ夫フウノ世話産子

ノ取アケニツノ道ヲ木花開耶姬命カ御サツケタモウナリ

火産金竹具ノ造傳之事

●彦火火出見尊 伊弉諾尊ノ御子ナリ此御尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモウヲ天軻遇
突智命ニ守セタモウ天軻突遇智命ハ此時ニヒノ木ヲトリテ木ト木トスリアハセテ火
ヲ産タシ是ヲタキ火トナシ是則タキ火ノ始ナリ又曰此時竹ノフシチヤキトリテフキ
竹トシヌスキタケノ始ナリ是竹具ノ始ナリ依テ火産神ト申シ奉ル則タキ火トフキ竹ト
ノ二具ヲ御サツケタモウナリトス

●天忍穗耳尊 彦火火出見尊ノ御子ニシテ此尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモウコトヲ石
凝烤命ニ御守セタモウ此時石凝烤命ハ石ヲ以テトコノ中ノ鉄ヲ石ニテコリダシ其鉄
ヲトリテ金具ト云チツクリ始此金具ハ地ニツチノカタチツケンノカタチノ中へ鉄
ヲカハラケコテハカシテ入テ金具ノツチガデキ其ノコリタル金ヲ地ニアケテ其ノカ
チヲ石ニテハチスリツケタケコテハサミシバリテタンカチトナシ金ニテ金チキルノ
始ナリ又曰木ヲトリテナカチシバリハサミタルチカチニカヘカチニテシバリハサミ
コレガカチノハサミノハシメナリ又曰石ヲシタジキニシタルチカチニカヘ金トコト
トナシコレガカナトコノ始ナリ又曰デハヤスリチノマサカリトイウカデキ始ナリ是
ヨリシテ金具ヲ御サツケタモウナリ

火産木金土草具讓與事

●天照皇太神 天忍穗耳尊ノ御子ニシテ地神ト云リ此御尊ハ先ノ御尊ノ御サツケタモ
ウヲテ保喉命ニ守セタモウ保喉命ハ稻ヲ植付時付カリトリ水ヲ用ルヲチナシコレヲ
用水ノ始トシ水ノタヘタルトコチホスヲチナシコレヲ惡水ノ始トシ食スル水ヲ定
メコレ井水ノ始井戸ノ始トス食水用水惡水ノ三ツチ始依テ水ハメノ命トモユヘリ此
時ヨリ水ノ順タクノ始ヲナシ稻ヲ水ノ中ニツクルヲ始メ食物ヲヨクタクハヘルヲ
ヲ始メ依テ御年神トマツルナリ此御代ニ至リテ諸々事ヲ奉ル

事代主命ハ財物ヲ受換スルヲ奉ル

大物主命ハ財物ヲ運送スルヲ奉ル

經津主命ハ身体智恵財物ヲ讓與スルヲ奉ル

武甕槌命ハ武勇ヲ守ルヲ弓矢ヲ奉ル

又曰經津主命ハ御尊ノ御サツケアルヲ大日本ハ不及申外國迄モ御讓報チナシタルナ
リ其讓報チウケタル御レイナスノタメニ諸國ヨリ貢ヲモチキタリ此時諸國へ財物
ヲ讓報チシタルハシメナリト云此時又曰八百万神等ガ讓報ノ道ヲナスヲ奉ルユヘ
ニ始テ神集神議チ始テ奉タリ依テ夫々ノ命ハ神々ノ趣意ヲ奉ルナリ是則神集ノ始ト
云ナリ

●天津彦瓊々杵尊 天照皇太神ノ御子ナリ地神トユヘリ先ノ御尊ノ御サツケタモウ
 ナ猿田彦命ニ守セタモウ猿田彦命ハ馬ニノルヲ奉ル猿田彦命カサルト云獸者ガ大
 ナル馬ト云獸者ヲホソキツナテ以テウヘニノリタリヒキツレタリ其ハサヲ猿田彦命
 カヨキコトユヘニ御尊ニ奉リタリ猿田彦命ノ曰獸者ニテモ神等ニ用テヨキコトナ
 スユヘニ神タルモノハヨキヲモ多アルユエニ八百万神等ノ神集神議ノ御始ヲ奉ルナ
 リ今世ノ國會ノ始ナリ神集ノヨキ旨ヲ御サツケニナリ神集ハ國會縣會町村會ノコト
 ナリ親子兄弟ノ集會ヲ日マチトス村會ヲ庚申トス今世ニテハ日マチ庚申ハ飲食スル
 モノトナソラヘタルハ大ナルマチガイナリ神代ヨリ人皇四十五代迄ハ神集ノ任限ハ
 四年トアル同聖武天皇ヨリヲ四十六代孝謙天皇天平寶字ニ至リテ御會ト改任限ハ六
 年トアリシモ日本十八吏ヲクニ見ヘタリ又安徳天皇ノ御代ニ平相國平清盛ヨリシテ
 止マリタリ又曰今上天皇御代ニ至町村會ヲ開キ又明治廿余年ヲ經テ國會ヲ御開設ニ
 ナリ神集神議ノ元祖猿田彦命伊勢國一ノ宮都波岐太神外宮ト申奉ナリ

● 稅賦課役之事

● 鷓鴣萱葺不合尊 天津彦瓊々杵尊ノ御子ニシテ地神ト云先ノ御尊ノ御サツケタモウ
 ヲテ健磐能命ニ守セタモウ健磐能命ハ御尊ノ御サツケヲ守リ魚鳥獸虫ノモノ其御サ
 ツケヲウケニイタルキニ友クイナナスニヨリテ御尊ノ御サツケニヨリ健磐能命カウ

カヤニテフキアハセズヨウニナシタルヲ以テ御尊ノ御名ヲ鷓鴣萱葺不合尊ト申奉ナ
 リ魚鳥獸虫モウカヤニテフキアハセズヨウニテ御サツケヲウケサセミナアンシンシ
 テ御サツケヲウケタモウナリ此時ツクシノ國ノ蘇民ノ巨且大王ト云カ今ノ肥前國ニ
 テ巨且大王ト云テ諸神ヲナヤマスルニ依テ八將神ヲ以テウチタモウ此巨且大王ハ大
 白星ノ姓ナリ金生ナルヲ以テ金神ト云神也此大王ハ御尊ノ御讓報ヲムサブリタルユ
 エニ右ノゴトクウチタモウナリ此大王ハ猿田彦命ノ第一御子ナリ第二御子ハ健磐能
 命ナリ健磐能命ハ御尊ノヲウセテ守各國ヨリ御チンタクヲ報スルタメニ貢ヲ奉ルヲ
 守リタモウ是則貢ノヲサムルノ始ナリトス又曰天神七代ハ日月星ノ化身ナレトモ地
 神五代ハ神ノ産タモウ御子ナリ依テ天神七代ト地神五代トハハケチカウフナリト云

第一

人皇壹代

神倭磐余彦尊 地神五代目鷓鴣萱葺不合尊ノ御子ナリ天神七代地神五代ハ國ノ惣名
 ナ豊葦原水穗國ト云神倭磐余彦尊ヨリシテ太和國ト云人皇十六代應神天皇ヨリシテ
 大日本國ト云ナリ神倭磐余彦尊ヨリシテハヒメキミノ御子ヲ各命ヲチヘ御サツケタ
 モウナリト云又此時ヨリ民ト改ルノ始ナリ神代ニテハ民ヲ以テエヒストユエリ直命
 アル民ヲ神代ニハ命ト云リ今世ノ地租ヲ拾五圓以上納ル者ハ神代ヨリ人皇四拾五代

御代迄ハ稻四拾束以上納ル者ハ公穀正税ヲ納ル八百万神ト云リ又安徳天皇ノ御代ニ公穀正税ヲ納ル者ヲハ本八万キト云リ安徳天皇ノ御代ニ平相國平清盛公ヨリシテ公穀正税ノ納ル任限ヲ止神代ノ神集神議ヲ止リテ御政事ヲナシタリシカ追々源平ノミタリトナリタルナリ則人皇壹代神倭磐余彦尊ヨリ百貳拾余代ノ今日ニ至ル迄日月ノ化身タルユエニ未代ニ至ルトモ今上天皇タツトキテハ言々ニモ筆紙モツクサレズトユヘリ應神天皇ツクシノ國ニ御産アリシトキ白鳥來リテ應神天皇ヲ守リタモウト云其白鳥ハ星ノ化身ナリ其時ニ依リテサマノト化身トナルナリト云又日月ノアハレミ星ノ御守リハ本朝ノ今上天皇ノ御徳ハ廣太ナリト云其外カゾユレバカゾカギリナシト申奉ルナリ

第一

地神三代

天照皇太神宮ノ廣太ノ御サツケヲ云虫ニハ虫ノ御サツケアリト云神ニハ神ノ御サツケアルナリト云ナリ

第二

天照皇太神宮ノ御サツケハ竜神ニハ竜神ノ御サツケナリ竜神ト云ハ大ナル虫ナレドモ生死ノ二ツヲクルシムナリ天照皇太神宮ノ御サツケハ身ヲ以テ身ヲ治ムルカ第一

ト御サツケアリ此時竜神ニハカハズト云竜神カセメルトコロノカハズノ子ヲ竜神ガ子ノスムトコロヘ守セタモウト御サツケアリタルナリト云

第三

天照皇太神宮ノ御サツケニ又曰ナメクジリニハナメクジリノセメ喰龍神ノ子ヲナメクジリノ子ノスムトコロヘ守セタモウト御サツケアリタルナリト云

第四

天照皇太神宮ノ御サツケハ又曰カハズノ子ニハカハズノセメ食ナメクジリノ子ヲカハズ子ノスムトコロヘ守セタモウト御サツケアリタルナリト云

第五

天照皇太神宮御サツケチウケニ出ルトキニ其三種ノ御サツケニチンレシタカウナリ魚鳥獸虫ハジキニハスレテシマウニ依テ地神五代目ノ御尊カウカヤニテフキ不合ニシタルナリ又曰ヒトノシルトコロ北面ノサムライ秀郷ト云士ニ竜宮ノ乙姫ガ近江國セタニテタノミイデタルナリト云

第六

人皇五拾六代清和天皇拾六代ノ孫源爲朝伊豆國大島ニ有シトキ島人ヲカ爲朝ヲガイセントセシトキコ曰白鳥來リテ源爲朝ヲヤシノウナリ末孫トイヘモ大上天皇末々ナ

リトモミナソノトウリナリト云

税賦課役之事

第一

税賦課役ノコトハ天照皇太神ノ御代ニ經津主命ヲ以テ草竹木金土道具ヲ造ルコト并
作物ヲツクルコトノ六具ヲ諸各國ニ御サツケニ相成タルヲ以テ地神四代天津彦瓊々杵
尊ノ御代ヨリシテ讓テウケタル其忍クテムクハシムルタメニ貢ノ稅物ヲナシタル
コトハ日本ハ不申及各國ヨリモ其通りナリト云

第二

人皇拾五代神功皇后ノ御代ニ其ノチンダクヲサンカンノ人民ガハスレテチンダクヲ
ボウチガイセントシテ黑兵ヲ起シ國ノボウチガイヲナシタルヲ以テ其時ニ神功皇后
武内スクネ御トモニテサンカン御セイバツアリ神代ノゴトキ讓報スル道ヲ御サツケ
アリテキ朝セリタルナリト云

第三

文永十一年十月五日蒙古ノ船多ク來リテ對馬國淺茅浦ニツク同十三日壹岐國同十九
日夜筑前國同廿日ヨリ同年十一月廿一日夜ニ至大留風皇神ノ御守ニシテ九百余船ニ
壹万五千兵ヲフキハタシタルナリト云

第四

弘安四年六月蒙古ヨリ賊兵カ貢チガイセントシテ又押來リテ閏七月朔日ノ日ノ午時
ニ皇神ノ守リノ神風起リテ賊ノ船三千五艘ヲチマチニ浪ニタ、ヨウセテ死殘リ賊
トモガツクシノ鷹ノ島ヘヨルナリ是ヲ軍船ヲ以テウチハタシタルナリ依テシタカイ
タルモノハ讓報ノ道ヲサツケ蒙古ノ國ヘカヘスナリ

第五

人皇十五代神功皇后ノ御代ニ貢ト云カ公穀正稅トテ稅賦ノ定ヲナシタル始ナリ課役
ノ始トスルナリ

第六

人皇三十代欽明天皇ノ御代ニ始テ本朝ニ諸國ニ藏ヲ立カタチ入ルトアルハ今ノ藏米
ヲ入ルト云フナリ國ノ兵民ノ用イ國民ノキヨチサイノ用イノタメナリ貢チナシタマ
クハエノハシメナリ此時始テ正稅ヲ藏入ルノハシメナリト云

第七

人皇四十六代孝謙天皇ノ御代ニ諸國ニ額定寺院ヲク公穀正稅トテ壹戸稻四拾束ヲ納
ムルコトヲ定タルナリ米五俵ヲ以テ壹戸ノ納トナルナリ此時始テ公穀正稅ノ長官亦
官ヲ定マルナリト云日本ニ一ヶ所ナリ

第八

人皇五十四代仁明天皇ノ御代ニ諸國ニ守介ヲオキ貢ノ勘定スルノ長官次官等ヲオクナリ公廩正税ノ始トス

第九

元弘二年地頭御家人所領縣課役ノ始ヲナシタルナリ

第十

源賴朝日本總追フシノトキ貫領ノ始ナリ壹貫文ニ付四斗俵拾俵ヲ壹戸ニテ納ムルト云コトヲ定タリ

第十一

豊臣秀吉天正年中分米壹石ノ實法ノ内ニテ米三斗七升ノ取米ヲ定メ村々ヘ定免請ヲ定メ免狀之始メナリ

第十二

徳川家康元和元年ニ川橋道路普請金トシテ國役ト定分米壹石ノ實法ヨリ三斗七升取外八升ヲ國役トシテ代米金ニテ納メシメ秀吉ケン地殘モ徳川家ニテ取米ヲ改メタリ是ヲ國役ノ始トスルナリ

第十三

徳川秀忠元和二年ノコロヨリ御米運送ノ馬大豆料トシテ米壹升ヲマシ虫食米トシテ貳升ヲマシ分米壹石ニ付四斗俵壹俵納メシメタルナリ

第十四

明治八年ニシテ地租改正トナリ田畑山林宅地ニ至ル迄反別改正ヲウケ地租百分ノ三ト申ナリ又十年改正シテ二ヶ半ト定タルナリ

第十五

人皇十七代仁徳天皇ノ御代ニ三年ノ貢之稅物ヲユルシタモウナリト云

第十六

明治年中府縣知事ヲオキ地方稅ヲカスル始ナリトス
商業諸職稅ヲ定タルナリトス
田畑作り始ノ事

稻田姫命カ十手ヲ四方ニカケテ水田トナシテ稻ヲツクルノコト水田ニ植付ノ始ナリ地ノカハキタルヲヤケ田トシテ火田トハ畑ノ始ナリ是則田畑ノ始トスル麥ヲ火田ヘウヘ水田ニ稻ヲウヘテ作ルイテ始テサツクル也稻田姫命ト申是若年ノ神ト申奉ル也

年徳三神之事

神稻之命 神代太神宮 大年太神宮 遠江國立野宮 稻荷之命 豊受太神宮 御年

太神宮 丹波國元伊勢 稻田姬命 吾妻太神宮 若年太神宮 東京市吾妻宮 以上
三神ハ年神太神宮ナリ其ミソ、キハ

神稻之命ハ遠江國豊田郡井通村立野神田宮ニ納リアリ
稻荷之命ハ丹波國元伊勢村之宮ニ納リアリ

稻田姬命ハ武藏國東京市本所吾妻之宮ニ納リアリ

公穀正税ヲ納ムルトコロノ年德三神之教所ナリ衣食住三ツハ神代ノ太神ノ御サツケ
ニアルナリ年月ヲアソシテ今日ヲ送ルハ神代ノ皇神ノチカケハ今ノ國王天子様
ノチカケナリ天照皇太神宮ノ教ヘ人ニハ三神教虫ニハトモヘノ教ナリト云人ニハ手
ノ利ハ智ノ利ニキカス智利ハ人ノ加ニシカズトアル其教ノ通ナリサマノ教ハ
アソトモ神代ノ御サツケニマサルモノナシト云ナリ

遠淡海大江郷神代之森

神代之宮

應神天皇十五年十一月祭

神稻之命大年太神宮

圭田百二十五東三字田有余

貢梅桃橘魚

應神天皇十五年大年太神宮神靈相添候事是也田畠其外他派子細難澁有間敷云々自今

以後諸役可令停止若到後代及難澁事有之者以後地頭代官エ先證文 國司守へ可申上
也仍如件

元曆二年七月廿三日

鎌倉

畠山兵夫森次

神稻連殿

遠淡海大江郷神代森

右神代森神稻之命大年太神宮

食様神靈也畠山殿之爲内廢歟度而一切停止 若後々代々及地頭代官等於有非法者先
此証文而其國之國司守護處エ可申上者也仍如件

鎌倉

畠山兵夫森次

神稻連殿

元曆二年七月廿三日

右神稻家ヲ建武二年天之中川へ大橋ヲカケテヨリ大橋ト云遠江掛川城井伊兵部少輔
家臣ヨリ渡邊被免候ヨリ長谷川久三郎代官トナリシトキ加藤治郎兵衛ト申也
其後又大橋治郎兵衛ト申今末孫ニテ當時大橋連ト申也

明治廿七年十一月十四日印刷
同年十一月十四日出版

著作兼發行者

靜岡縣遠江國豊田郡井通村立野五十七番地

大橋卓藏

印刷者

靜岡縣遠江國磐田郡見付町三百四番地

鈴木吉太郎

伊五郎